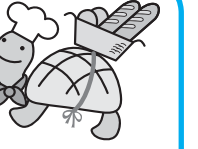


福祉工房 亀のパン



- 焼きたてのパンをご自宅へ配達します！
人気商品は宅配サービスがより確実です。隣人・友人の方にもぜひご紹介ください。
- 営業時間が変わりました！
・「亀のパン」須恵店
月曜日～土曜日 9:00～18:00
日・祝日 9:00～17:00
・「亀のパン」2号店(志免店)
水曜日～月曜日 10:00～17:30
毎週火曜日は定休日です。
- 問合せ先
福祉工房 亀のパン (ボランティアセンター内)
☎932-1155 FAX932-6301

茅の会たより



茅の会は、平成16年4月から有償茅の会として新たに発足しました。

すでに、これまで何件もの作業依頼があり、多くのご家庭から好評をいただいています。

これからも茅の会は、少しでもみなさんたちお役に立てるようにがんばってまいりますので、末永くご利用ください。



剪定作業

- 茅の会の活動内容は
家屋の掃除など・食材などの買物・庭木の剪定や草取りなど・家屋の軽微な修繕(簡単な大工仕事)・フスマ張り、障子張り・その他軽微な作業など
まずは、お気軽にお問い合わせください。
- 問合せ先
・茅の会事務局 ☎932-6300
・社会福祉協議会 ☎933-2160

区長がゆく、これからは思いを託して



甲植木 大場正起(前区長会長)

粕屋町の一角に、大型商業施設「ダイヤモンドシティ」がオープンした。
かの地は、その昔、レンコン堀であった。炭鉱の鉱害で地盤沈下がひどく、稲はもとより、レンコン以外には作物の栽培は難しいという湿田であった。
そこに、多くの若者たちが闊歩する不夜城のようなショッピ

ングセンターが出現した。湿田にすんでいた河童たちの子孫も、その変貌振りに、目をパチクリさせているに違いない。
畑といえば、わが須恵町の今の福祉センターと健康広場も、一時期、芋畑になったことがある。若い人たちはご存知ないかと思うが、太平洋戦争が敗色濃厚となるにつれて、食糧難は

益々逼迫していった。当時の国民学校(今の小学校)では、運動場を人力で掘り起こし、畑に変えた。
そこには、サツマイモなどの苗が植えられたが、なにしろ元々は運動場で、肥沃な土地であるうはずがない。当時の児童同様に、栄養失調気味の農作物しか収穫できなかったように思う。
思えば、世の中というのは、えてして人知で推し量れないことが起こりがちである。国鉄志免炭鉱の閉山にしても然りである。

敗戦に打ちひしがれていた日本は、昭和25年(1950年)の朝鮮戦争で復興の足がかりをつかんだ。石炭は、黒ダイヤともてはやされ、石炭産業は鉄鋼とともに、国の二大基幹産業として、この世の春を謳歌した。
炭鉱の社宅街には、その頃普及し始めたテレビのアンテナが、絶頂期のシンボルのように林立し、朝日を受けてまぶしかった。
あの繁栄が、終末を迎えるとは想像もできなかった。それが、わずか10年余りで閉山の憂き目にあってしまった。

わが町も、こうした有為転変を繰り返しながらここまで発展をとげてきた。
これから、歴史の歯車はどう動いていくのか予測はつかない。思うに、われわれは、日々のあわたたしきの中で、ふと立ち止まって、今までの歴史と将来を考へることも大切なのではないか。
須恵町の歴史を見つめ続けてきた若杉山は、今日もわれわれを見守っている。(おわり)

第16回アジア太平洋子ども会議・イン福岡

アジア太平洋の51の国と地域から約500人の子どもたちが福岡にきました。本町には、パラオ共和国から子どもたち6人男3人女3人とシヤペロン(引率者)が、7月19日(月)から28日(水)

までの間、町内の7家庭にホームステイしました。
ホームステイを受けてくださったご家庭の中から、貴重な体験記が寄せられましたので、ご紹介します。

楽しい思い出をありがとう
私の家にホームステイしたのは、パラオ共和国のマース君。「桃太郎」の歌が大好きで、一日何回も歌っていました。また、折り紙が好き、ピース遊びが好き、まるで娘が3人いるようでした。

私の家では、ホームステイした子どもたちは、お客さんとして扱わず、家族の一員として何をするのも一緒です。同じ食事をし、料理を作り、ごみを出す、マースも同じです。
マースは、帰国前夜「まだ日本に残りたい」と言っていました。



すこくやんちゃで、明るい男の子でしたが、空港で彼の大きな目

第29回カナダフレンドシップ大使派遣事業に参加して

第29回カナダフレンドシップ大使派遣事業 英語研修・多文化理解

環境保護研修&国内留学(訪問先・カナダ、バンクーバー市、7月26日～8月9日、カナダ友好協会主催)に、本町からの参加者があり、体験記が寄せられましたので、紹介します。

自分がカナダに来て思ったことは、ここの人たちはとてもゆつくり生活を送っていると思う。

カナダの中心街に行くと、あたりまえに人がわんさかいるけれど、住居地に行くとき道を歩いている人が、ぜんぜんなくてびっくりした。
カナダのいい所は、まず、みんなとても仲が良いことだ。見たこともない人にも、まるで友達のように話かけてくれるし、トラベラーズチェックが使えるし、と言われた時も、ファミリイの人だけじゃなく後ろに並んでいた人たちまで一緒に、なんとか使えるようにとしてくれたことにほんと感激した。日本の人た

ちも、カナダのいい所を取り入れたらもっとよくなると思う。その他には、花や木を大事にしているし文化財も大事にして

いる。空気もキレイだし、ぜんぜんゴミが落ちていなかった。
英語研修では、先生がとても親切に教えてくれるし、おもしろいことも言ってくれるし、とても楽しく英語の勉強が出来て本当によかったと思う。

自分がカナダから日本に帰る日は、カナダのバンクーバーに残っていたい気持ちと、日本に帰れるという気持ちとがあつて、とても複雑な気持ちだった。
今度また、カナダに来るときはもつと英語が話せるようになって絶対来たいと思う。



川口 遼くん (旅石区・13歳)

インクの思い出

ぼくの、ラストの一番の思い出は、ボーリングです。なぜかと言うと、その日にはじめてストラ

イクをとれたこと、ラストが2ゲーム目の最後に、2レインとなりの所にボールが行ったからです。みんな大笑いしました。
二番目の思い出は、ラストとランプをしたことです。ばばぬき、ぶたのしっぽ、じじぬき、しんけんすいじやくをしました。
ラストは、トランプゲームが強かったです。僕は、英語がうまくしゃべれなかったけど、身ぶり、手ぶりで一生懸命に自分の気持ちを伝えました。
ラストと楽しい毎日をお過ごしよかったです。
(江田ゆうきくん・大島原区)

